

# お口爽やかですか

テーマ **フッ化物洗口によるむし歯予防への国の見解**

## フッ化物洗口法、国が保証し責任を持つ

去る9月17日、シンポジウム「歯からはじめる21世紀の健康づくり」が登別市民会館で開かれた。主催は北海道歯科医師会、室蘭保健所、登別市である。市民約180人が専門家の意見を学んだ。国の見解とも

いえる国立保健医療科学院口腔保健部、安藤雄一室長の基調講演を以下紹介する。

**歯質が強いのか弱いかでむし歯になるかどうかが決まる**

むし歯に一旦なった歯は、治療を行ってもダメージを負ったままなので喪失する危険が非常に高い。ある程度治療で進行を食い止めることはできるが、完全に治すことは難しい。フッ化物のむし歯予防効果は、歯みがきより効果が高い。

「8020運動」とは80歳で20本以上持つことで、

よりよい生活につなげていくことが大切であるという運動なのです。

さて、むし歯は歯垢といわれる細菌が大きな原因で、砂糖をエネルギーにして酸を作り歯を溶かし、結局はむし歯にしてしまう。つまり、歯質が強いのか弱いかでむし歯になるかどうかが決まる。そのために、フッ化物を利用して歯質を強くすることが大事ではないか。さらに、甘味料砂糖の適正な摂取制限が求められるだろう。なぜならば、砂糖がなければむし歯菌の繁殖力が下がるからだ。



北海道は沖縄県に次いでむし歯が多い

フッ化物の利用状況では、世界でフロリデーションといて水道水のフッ化物濃度を適正にしてむし歯を予防したり、歯磨き剤に入っていたり、フッ化物洗口法は1億人が実施している。日本ではフロリデーションはしていないが、洗口は75万人が実施し、87%の歯磨き剤に入っている。

2002年のデータだが、12歳の子供で最もむし歯が少ないのはフッ化物洗口が普及している新潟県で、北海道は沖縄県に次いでむし歯が多い。

世界でフッ化物の有効性を示す研究報告は多いが、フッ化物を利用することで歯科治療費は少なくて済む。また80歳で自分の歯を20本以上保っている人の医療

費は低い。

**国が責任を持って「フッ化物洗口ガイドライン」で推奨**

フッ化物についてだが、自然環境物質で健康に有益な物質である。どんなものでも過ぎれば急性中毒を起すが、通常はありえない。長所は確実な予防効果であり、短所は関係者との合意形成に時間がかかることであるだろう。フッ化物を使う是非論が加熱したときに、本来の目的は何か立ち返り議論すべきではないか。

厚生労働省としては、2003年に「フッ化物洗口ガイドライン」を都道府県知事に健康局長、医政局長連名で通達している。これはガイドラインに沿ってやる限り効果と安全性は国が保証し責任を持つということだ。